

血統表

エスポワールシチー 栗毛 2005	ゴールドアリュール 栗毛 1999	サンデーサイレンス	Halo	Hail to Reason
			Wishing Well	Cosmah
			Nureyev	Understanding
		ニキーヤ	Reluctant Guest	Mountain Flower
	エミネントシチー 鹿毛 1998	ブライアンズタイム	Roberto	Northern Dancer
			Kelley's Day	Special
				Hostage
				Vaguely Royal
		ヘップバーンシチー		Hail to Reason
				Bramalea
ブルーボラリス 黒鹿毛 2003	ウェイオブライト 黒鹿毛 1996	Woodman	Mr.Prospector	Graustark
			ブレイメイト	Golden Trail
			Nijinsky	Never Bend
		Salchow		Roman Song
			Coup de Folie	トラフィック
				リンネス
	マーズプリンセス 鹿毛 1997	デインヒル	Danzig	Raise a Native
			Razyana	Gold Digger
				Buckpasser
				Intriguing
			Roberto	Northern Dancer
		ディアーマミ		Flaming Page
			Carnival Princess	Halo
				Raise the Standard

Halo : S4×M5 , Robert : S4×M4 , Hail to Reason : S5×S5×M5 , Northern Dancer : S5×M5×M5

Famiily

- 母** **ブルーボラリス** (03 *ウェイオブライト) 2勝, 障1勝。本馬は第8仔。産駒
- ブルーガーディアン(12 牡黒鹿マーベラスサンデー) 1勝, ⑩
 - ブルーネビュラ(13 牝鹿サムライハート)東海(公) 1勝
 - ステラポラーレ(14 牡栗*ケイムホーム)兵庫(公) 5勝, 東海(公) 2勝, 岩手(公) 2勝, ⑩
 - デニストン(15 牡鹿*プリサイスエンド)北海道(公) 2勝, サッポロクラシックC 2着, 南関東(公) 4勝, ⑩
 - リンノバルビート(18 牡栗アドマイヤムーン)未出走
- 祖母** **マーズプリンセス** (97 *デインヒル) 3戦。産駒
- ブリリアントアスク(牝ネオユニヴァース) 4勝, 白井特別, 春日山特別, デイジー賞
 - ディーズメンフィス(牝マヤノトップガン) 2勝, 赤松賞
 - ディープリンアスク(牝ディープリンバクト)入着。産駒
 - ファンタジスト** (牡ロードカナロア) 3勝, 京王杯2歳S-G2, 小倉2歳S-G3, セントウルS-G2 2着, スプリングS-G2 2着, 朝日杯フューチュリティS-G1 4着
 - コロラトゥーレ(牝*タイキシャトル) 4勝, RKB賞, ⑩
 - ボンボヤージ(牝ロードカナロア) 2勝, ⑩
 - トモロザベスト(騾マーベラスサンデー) 1勝
 - ディーズハイビガー(牝*アグネスデジタル) 1勝。産駒
 - アセンダント(牝ダノンバラード) 1勝, ⑩
 - ジャジャウマガール(牝ハーツクライ) 1勝
 - パリスブルー(牝ゼンノロブロイ)東海(公) 2勝, 中央障1勝
- 曾祖母** *ディアーマミDear Mimi (87 Roberto) 米国産, 英入着。産駒
- フリートレイディ** Fleet Lady : 北米10勝, ラカナダS-G2。 **ミッドシップマン** Midshipman (BCジュベナイル-G1), **ファストクッキー** FastCookie (コティリオンH-G2) の母, **フロステッド** Frosted (メトロポリタンH-G1), **ランニングトール** Running Tall (VRCサイアーズ プロデュースS-G2), **インダルジェント** Indulgent (ゴーフォワードH-G3), **エルザ** Elsa (ジミードウランテS-G3) の祖母

水 上 学 の
血 統 解 説

半兄妹たちはタフな点が強みで、特にブルーガーディアンは2020年7月末日現在障害未勝利に在籍ながら、平地時代併せて通算29回も掲示板を守ったという無類の堅実さを誇っている。丈夫で長持ちを地で行く血統だ。

また近親には京王杯2歳S、小倉2歳Sを勝ち朝日杯F Sでも4着となったファンタジストがおり、仕上がりも決して遅くはない牝系でもある。他には準オープン昇ったブリリアントアスクや、赤松賞を勝ったディーズメンフィスらも出ている良質一族だ。

父がエスポワールシチーなので、おそらくダート中距離に適性が出るはず。持ち前のタフさで、コストパフォーマンスはかなりの良いタイプだろう。

治 郎 丸 敬 之 の
馬 体 診 断

エスポワールシチーの産駒は、初年度のかなり早い時期から生産地での評判が良かったことを覚えています。初年度の110頭から、2018年は161頭、2019年は138頭と種付け頭数が地道に増えているのもその証拠です。産駒は門別などの地方の競馬場でパワーを生かして走り始め、次々に勝利を収めて行ったからです。気性的な激しさが仕上がりの早さにつながり、ダート戦における勝負根性として現れるのでしょうか。同馬の馬体を見ても分かる通り、いかにもダート馬という馬体のゴツさが見事に受け継がれています。野武士という表現が適切かどうか分かりませんが、速くスマートに走るというよりは、パワーと気持ちの強さを生かして荒々しく走るイメージの馬体です。ダート戦のマイル前後の距離のレースを適戦として走るのではないのでしょうか。肉体的に健康であることは確かなので、あとは気持ちを解きほぐしながら、育成段階ではきちんと教えてあげることができれば自身の能力を発揮してくれるはずです。

